

令和2年度 実践型地域づくり人材育成プログラム 成果報告会

24市区町の
ケースから学ぶ

介護予防・生活支援の地域づくりに向けた 地域課題解決のプロセスとは

2021年2月3日



藤田医科大学

地域包括ケア人材教育支援センター

NTT DATA

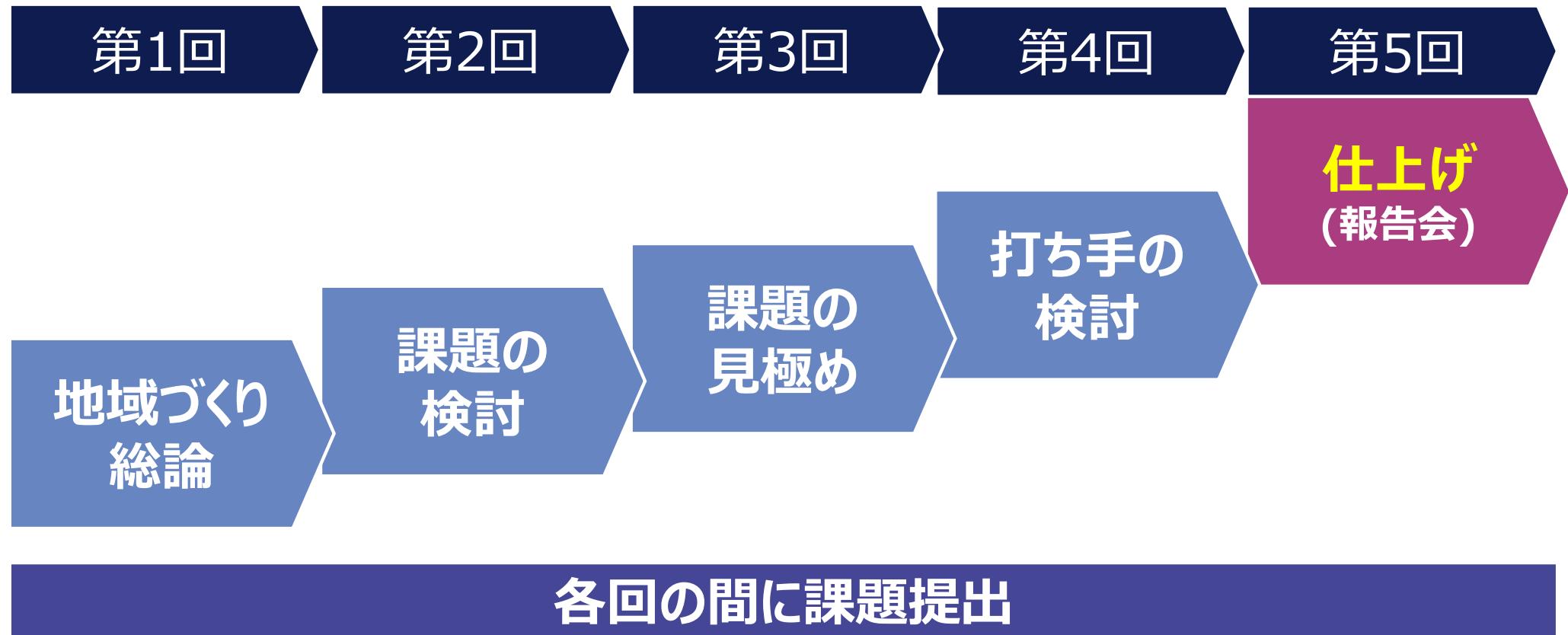
株式会社 NTTデータ 経営研究所

協力

豊明市

プログラムの流れ

研修 2日間 × 5ヶ月



今日の見どころ

- ✓ 最初は**何が課題だと考えていた**か？
- ✓ 課題を考える「型」を学びながら、
思考がどのように変化したのか？
- ✓ それは**なぜ**か？

総合事業移行後に顕在化した“地域づくりの壁”への対策としてPG開発

2015～2017

総合事業
体制整備事業
移行

2018～
効果的な
推進方法の
研究

(NTTデータ経営研究所)

2019
プログラム
立ち上げ

(東海北陸12市町)

2020
プログラム
第2回

(全国24市区町)

新型
コロナ

地域づくりの
悩みが顕在化

地域マネジメント力
向上への
支援が必要

藤田医科大
地域包括ケア
人材教育支援センター
設立

- ✓ カリキュラムバージョンUP
- ✓ 全国に拡大
- ✓ オンライン活用

「地域包括ケア豊明モデル」 多数の視察はあるが…

全国自治体・視察件数ランキング2020

記事一覧

「豊明モデル」が初の首位、2020年は新型コロナの影響大

「豊明モデル」が最多の271件、圧倒的トップに

今回の調査でトップに立ったのは、愛知県豊明（とよあけ）市の「地域包括ケア豊明モデル」だった。視察数は271件であり、第2位の神奈川県大和市の文化創造拠点「シリウス」を大きく引き離している。豊明モデルは、第2回（2018年）調査の53件、第3回（2019年）調査の110件から大きく数を伸ばし、年を追って注目度が上がっていることがうかがえる結果となった。

豊明市の取り組みは、2018年7月にスタートした「高齢者が外出したくなるまちづくり」にさかのぼる。高齢になっても不自由なく暮らせる社会を目指し、民間企業と…

地域包括ケア
豊明モデル



<https://www.city.toyoke.lg.jp/6438.htm>

取組そのものをマネようとしても、うまくいかない！

「地域包括ケア豊明モデル」の根底にあるものとは？

基礎自治体職員としての意識・姿勢・行動

- ✓ 「ふつうに暮らせるしあわせ」を支える視点
- ✓ 本当の課題は何かを問う
- ✓ 個別事例から考える
- ✓ 手足で情報を集め、自分の頭で考える
- ✓ 関係者と対話し、課題を共有する

…etc

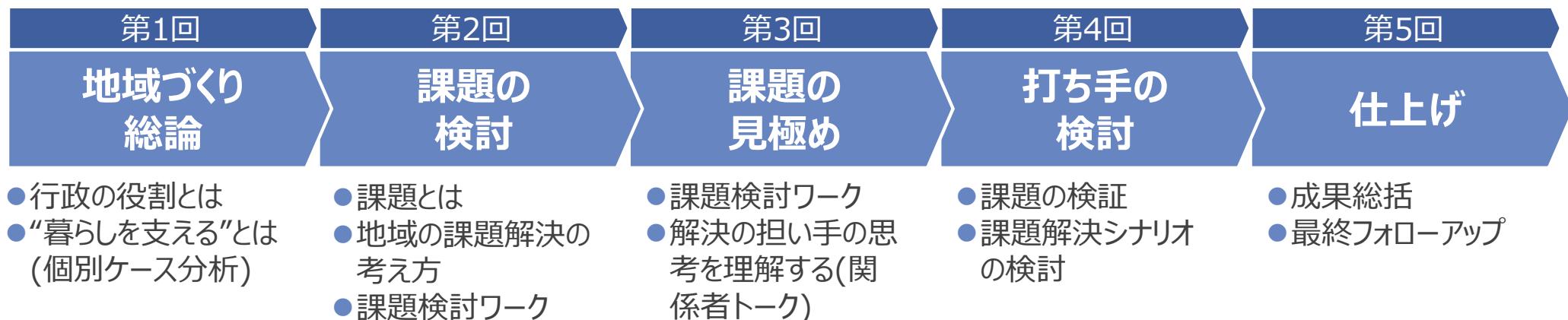


「ふつうに暮らせるしあわせ」を支える地域へ

プログラムの全体像

藤田・豊明モデルの根底にある“型”的体得を目指し、
講義→ワーク→実践→フィードバックを繰り返す

プログラムの流れ



オンライン
(事前課題)

現状把握・分析

課題検討

課題・打ち手検討

課題共有・F/S*

※フィジビリティスタディ (実現可能性の検討・検証)

各回のゴール

✓意識・意欲
✓ベース知識のセット

✓課題解決プロセス
の理解

✓課題の質の向上

✓課題解決策のブ
ラッシュアップ

✓思考の可視化
✓組織内への伝搬

コロナ禍における新たなコミュニケーションへのトライ

本プログラムのグラウンドルール

心地よく、効果的にプログラムの目的を達成するため、全参加者共通のルールです。

1 よく聞く

講師の話はもちろん、他の市町村や地域関係者の話など、すべてが「学び」の材料です。
「自分には関係ない」ではなく、他者の考えによく耳を傾け、ヒントをつかもうとする姿勢を大切にしてください。

2 やってみる

プログラムで気づいたことや得た学びは、実践してみましょう。
「わかる」「できる」は違います。このプログラムでは、実際にやってみて初めて気づくことやわかることを大切にいきます。

3 共有する

言葉を尽くして伝えましょう。あなたの考えを知ることで周囲もよりよい助言ができます。
また、一緒に働く仲間や地域の関係者と気づきや学びを共有することでチームとしての力を高めることができます。

4 つながる

講師陣、他の市町村とのつながりは後の財産になるはずです。積極的にコミュニケーションしていきましょう。
また、プログラムをきっかけに地域の関係者とつながることも意識していきましょう。

5 楽しむ

楽しいところには人は集まります。真剣に取り組みつつも前向きに。そして他者も前向きでいられる
ような雰囲気をつくることを心がけましょう。
違いを受け入れる、否定をしないなど、相手を尊重することも忘れずに。

学び合いのためのグラウンドルール

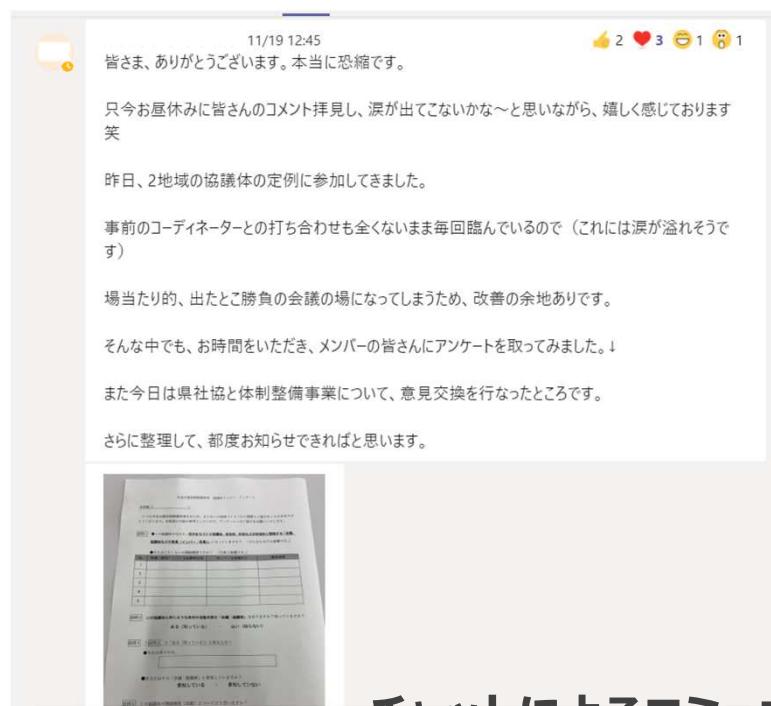
要介護認定の状況（新規認定者の分布）



データをふまえた対話



オンライン懇親会



チャットによるコミュニケーション

第1回 地域づくり総論

学びの目標を確認



藤田医科大学
「ケア人材教育支援センター」

晃都築



受講生自己紹介



行政の役割や専門性とは

現代は「せめぎあい」の時代

- グローバル化と国家の台頭
- 工業化とデジタル化（ポスト産業資本主義？）
- 新たなテクノロジーの積極活用とリスク社会化
- ヒエラルキーとネットワーク（タテヒヨコ）

これからの社会と基礎自治体職員の役割



個別事例から暮らしの課題を考える

個別事例から見える暮らしの課題とは

第2回 課題の検討



課題とは



関係者から見た地域課題とその解決



課題検討ワーク



第3回 課題の見極め



課題検討ワーク

豊明市で活動する
医療福祉専門職と
のテーマ別セッション



解決の担い手の思考を理解する(テーマ別セッション)

第4回 課題と打ち手を検討する



ワークによる課題・
打ち手の解決プランのブラッシュアップ



課題と打ち手の検討

市町村名：宮城県東松島市		これまでの検討を踏まえて現時点での設定	なぜ？（裏付ける具体的な事実とともに）
目指す姿	地域の団んでいる人（要支援・要別ケース）を介し当事者や暮らし（より良い姿）を意識し、S-Cと専門性に基づいた情報とネットワークを駆使して包括とS-Cが双方的に連携する	（なぜそれを目指したいのか） 地域に団する人を底にし、地域で団つて、より良いもので、自立した暮らしを競われる地域へ重視化するから、重視化することで、地域での支え合いが整がりづく	（なぜそれが実現するのか） S-Cは個別で連携する場合、意識が少ないので、S-Cと専門性に基づいた情報セクターに配いで終わり、包括とS-Cの協同ケースが少ない お互いが求められている役割、活かせる役割を理解していない
現状	（目指す姿と現状のギャップを埋めるために取り組むべきこと） S-Cと専門性に基づいた連携、協同事例の不足 包括支援センターとS-Cの連携不足による共有可能性の実現・専門性を活かしてもらいための行政の役割 →「やりがい創出」データや事例の提示 ▶専門性を必要せざるト ▶マシンパワー不足、保証的不足の現実 ▶報告書様式の負担軽減、対話による見直し	（なぜそう考えたのか） S-Cの活動フィールドで協同することで、互いの課題意識や目指す姿を共有する機会となる。 個別ケースに対して共通して支援に携わる体制を通して、地域課題、地域資源、人材合意を意識できる。 S-Cの活動を深化させることを求める一方、提出書類等の複雑化で、活動や意識が停滞している。	（なぜそれが有効だと思うのか） S-Cの活動地域や関わる人が固定化してきており、新たな資源やネットワーク、課題の発見がなくなっている。 重視化する前から、本人の地域での自立した暮らしの実現と、支援が必要な人を受け入れ、支え合いで地域づくりに繋がる。 ※これにより「どんな人が助かる」といった具体像が描けていない。
課題	（目指す姿と現状のギャップを埋めるために取り組むべきこと） S-Cと専門性に基づいた連携、協同事例の不足 包括支援センターとS-Cの連携不足による共有可能性の実現・専門性を活かしてもらいための行政の役割 →「やりがい創出」データや事例の提示 ▶専門性を必要せざるト ▶マシンパワー不足、保証的不足の現実 ▶報告書様式の負担軽減、対話による見直し	（なぜそう考えたのか） S-Cの活動フィールドで協同することで、互いの課題意識や目指す姿を共有する機会となる。 個別ケースに対して共通して支援に携わる体制を通して、地域課題、地域資源、人材合意を意識できる。 S-Cの活動を深化させることを求める一方、提出書類等の複雑化で、活動や意識が停滞している。	（なぜそれが有効だと思うのか） S-Cの活動地域や関わる人が固定化してきており、新たな資源やネットワーク、課題の発見がなくなっている。 重視化する前から、本人の地域での自立した暮らしの実現と、支援が必要な人を受け入れ、支え合いで地域づくりに繋がる。
打ち手	（どこから手をつけるか、それによって誰の役が変わっているのか） 包括支援「知識アドバイザー」へのS-C参画 S-Cの立場・得意の分野 S-Cが百貨店（地域マーケット）で気になる人を、総合事業（訪問C）につなげる マーケティング後は地域での暮らしに繋がるための組織的支援 包括支援キックオフ会議が開始 包括、S-C、包括支援相談員による事例検討、ケース支援	（なぜそれが有効だと思うのか） S-Cの活動地域や関わる人が固定化してきており、新たな資源やネットワーク、課題の発見がなくなっている。 重視化する前から、本人の地域での自立した暮らしの実現と、支援が必要な人を受け入れ、支え合いで地域づくりに繋がる。	（なぜそれが有効だと思うのか） S-Cの活動地域や関わる人が固定化してきており、新たな資源やネットワーク、課題の発見がなくなっている。 重視化する前から、本人の地域での自立した暮らしの実現と、支援が必要な人を受け入れ、支え合いで地域づくりに繋がる。

検討してきた内容を
課題解決シナリオに
整理

課題解決シナリオの検討



ネットワーキング

本日（第5回）のねらい

本日は、24自治体のケースを踏まえた“学び合い”の場

プログラム
参加市町村

学びを総括・言語化し、組織へ共有・展開する

他の市町村、
地域づくり
関係者

わがまちの地域づくりに向けたヒントを得る

市町村を
支援する
都道府県等

市町村の実情を知り、支援方策のヒントを得る

今後の継続した支援と情報共有が重要

正解がない

相談したい

課題も人も変化

伴走者が必要

実践と効果判定

予算や時間が必要

- ・個別支援 メール相談
- ・次回オブザーバー参加
- ・現地支援
- ・民間や新サービス紹介
- ・同窓会や情報交換会ほか..

修了生や修了自治体が、近似課題をもつ他市町のモデルになる。

今日の見どころ

- ✓ 最初は**何が課題だと考えていたか**？
- ✓ 課題を考える「型」を学びながら、
思考がどのように変化したのか？
- ✓ それは**なぜ**か？

関連情報

平成30年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進事業
介護予防・日常生活支援総合事業及び生活支援体制整備事業の
効果的な推進方法に関する研究事業 指導書

介護予防・日常生活支援総合事業
生活支援体制整備事業
これからの推進に向けて
～伴走型支援から見えてきた事業推進の方策～

2019年3月 株式会社NTTデータ経営研究所

2018年度伴走型支援の成果物 「介護予防・日常生活支援総合事業、生活支援 体制整備事業これからの推進に向けて －マンガでわかる推進ストーリー－」

https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/h30_04_2_jigyohokusho.pdf



令和2年度実践型地域づくり人材育成プログラム 研修の様子

<http://www.fujita-hu.ac.jp/~chuukaku/kyouikushien/repo2/index.html>



プログラム受講生による報告

多様な市区町・多様な観点

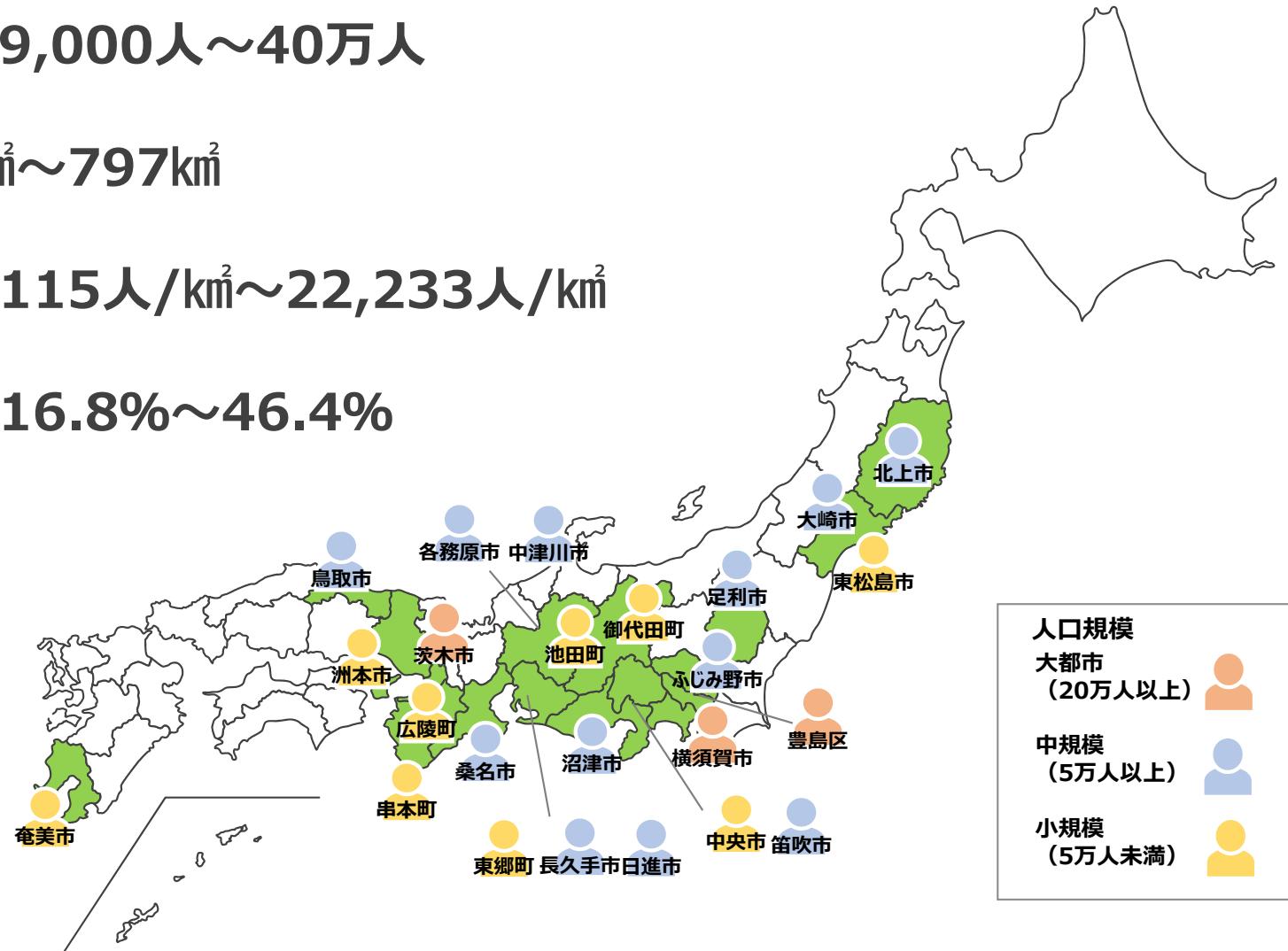
— 参加 24 市区町の基礎データ —

■ 人口規模 9,000人～40万人

■ 面積 13km²～797km²

■ 人口密度 115人/km²～22,233人/km²

■ 高齢化率 16.8%～46.4%



本プログラムのグラウンドルール

心地よく、効果的にプログラムの目的を達成するための、全参加者共通のルールです。

1

よく聴く

講師の話はもちろん、他の市町村や地域関係者の話など、すべてが「学び」の材料です。「自分には関係ない」ではなく、他者の考えによく耳を傾け、ヒントをつかもうとする姿勢を大切にしてください。

2

やってみる

プログラムで気づいたことや得た学びは、実践してみましょう。「わかる」と「できる」は違います。このプログラムでは、実際にやってみて初めて気づくことやわかるることを大切にていきます。

3

共有する

言葉を尽くして伝えましょう。あなたの考えを知ることで周囲もよりよい助言ができます。また、一緒に働く仲間や地域の関係者と気づきや学びを共有することでチームとしての力を高めることができます。

4

つながる

講師陣、他の市町村とのつながりは後々の財産になるはずです。積極的にコミュニケーションしていきましょう。また、プログラムをきっかけに地域の関係者とつながることも意識していきましょう。

5

楽しむ

楽しいところには人は集まります。真剣に取り組みつつも前向きに。そして他者も前向きでいられるような雰囲気をつくることを心がけましょう。違いを受け入れる、否定をしないなど、相手を尊重することも忘れずに。

共感コメントをきかせてください

Zoomのチャット機能を使えば、みなさんのひとこと共感コメントを投稿できます

